

事業の名称等	ねらい	学習者の状況	成果指標
<p>2022年度もりの学舎ようちえん</p> 	<p>四季を通じて自然を体感し、親んでもらう。 自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）とする。</p>	<p>自然体験をほとんどしたことがない。 保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。</p>	<p>四季を通じて自然を体感し、親しむことができたか。 自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ（きっかけ）ができたか。</p>
取組の内容	工夫	学習者の反応	学習の効果&主に育まれる力
<p>1 森の危険な生きものを紹介するなど、自然に親んでもらうところからスタート (5月)</p>	<p>「いろいろみつけ」 …ハチに遭遇したときの対処方法を「ハチさんが飛んできた！」という遊びを通して楽しく練習。モールで作った人形の友達「もりんちゅ」と一緒に森を散歩しながら様々な自然を発見し、触ったり、においを嗅いだりしながら、森を体感する。 本物体験 ゲーム化</p>	<p>【保護者アンケート抜粋】 「もりんちゅを作るだけで、視線や視点が変わった」 「普段じっくりゆっくり見ることのない地面や葉を観察できてよかった」</p> 	<p>森で安全に遊ぶために注意すべきことを学ぶとともに、五感を刺激しながら、生きものや植物への興味を高めることができた。</p> 
<p>2 生きものに触れる、森にある物を使った工作、森のめぐみの試食などにより、四季を通じた自然体験を行う (7月～1月)</p>	<p>「いきものみつけ」等 …皆と協力してバッタを集める「追い込み漁」やクワガタなどが採れる昆虫トラップなどにより、実際に生きものを捕まえながら、生きものを見つけ方や道具の使い方を学ぶ。捕まえた生き物の絵を描かせ、形や模様の違いなどをじっくりと観察。 本物体験 驚き・感動</p>	<p>【保護者アンケート抜粋】 「虫を見つけていく度に目がキラキラしていた」 「自分で捕ったり、図鑑で調べたり、好奇心が刺激され本当に良い体験となった」</p> 	<p>生きものに実際に触れ、間近に観察することで、子どもの驚きや感動を引き出し、自然を観察する力を伸ばすことができた。</p> 
<p>3 まとめ (3月)</p>	<p>「春みつけ」 …桜の枝を煮出して色が出る様子を観察し、風呂敷を染める。まだ寒い森の中に出かけ、小さな草花やカエルの卵・オタマジャクシなど、春を感じさせる自然を探し、季節の変化を体感する。自ら率先して生きものを探しだすようになった子どもの様子を見守る。 本物体験 見守り</p>	<p>【保護者アンケート抜粋】 「桜の幹を使って、あんなにキレイなピンク色になるとは」 「1年間参加し、虫や草や色々な自然に触れて、新しい発見ばかりの日々だった」</p> 	<p>大人の声掛けがなくても、自ら積極的に自然と触れ合う様子が見られるようになり、一年間の活動を通じた変化が感じられた。</p> 
■2022年度もりの学舎ようちえん	学習者の変容		成果と課題
<p>・2016年度から4歳以上の未就学児向けにもりの学舎で実施している事業。 ・もりの学舎の環境を活かして、森の案内人「インタープリター」とともに、大人と子どもと一緒に自然や生きものと触れ合うことができる、全6回のプログラムである。</p> 	<p>【保護者アンケート抜粋（半年後アンケート）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折に触れて、池でしかけを沈めて魚を獲ったこと、カエルの卵を触ったことなど、「〇〇したよね」と口にする。 ・少し苦手であった虫にも親しみをもち、家の付近で見つけると、興味深く観察している姿が見られるようになった。 ・もりんちゅがいたら、という視点での発言や、家の周りでの外遊び、昆虫探しなど、それまで以上に積極的になった。 (約57%の保護者が、子どもの行動や発言について変化を感じていた。) 		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季を通じ、工夫を凝らした自然体験の場を提供することで、自然に親んでもらうことができた。 ・本事業参加後、子どもの自然体験の回数の増加や継続が見られた。 ・自然に関する子どもの行動や発言に変化が表れ、また、保護者自身も子どもと一緒に自然の大切さについて考えるきっかけとなったと推測できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者の双方に対し、プログラム終了後も、家庭や地域で自然体験を継続してもらえよう促していく必要がある。